

リニア駅周辺及びその近郊における景観のあり方（考え方）について

1 趣旨・・・ P 2

「リニアの整備効果を地域振興に活かすビジョン（案）」について、駅周辺及びその近郊における景観のあり方を令和5年度末までにまとめ「環境・景観配慮指針（案）」として公表を予定しており、「環境・景観配慮指針（案）」の位置づけや現時点での景観のあり方（考え方）について報告する。

2 報告事項

(1) リニア駅前広場における建築物等の形態意匠基準（デザインコード）について・・・ P 3～P 6

駅前デザインガイドラインに基づいて、リニア駅前広場における建築物等の形態意匠基準（デザインコード）を設定する。また、景観デザインの方向性については景観デザインの啓発や誘発また、対話型の景観づくりによって景観の創造的發展を目指していく。

(2) リニア駅前広場における視点場からの眺望の検証等について・・・ P 7

リニア駅前広場において、美しい山並みや日本の原風景とも言える里山の風景を眺望できる視点場を設定し、高さのあり方など3Dデータを活用して検証を行う。

(3) リニア駅周辺における「環境・景観配慮指針（案）」のイメージについて・・・ P 8

リニア駅前広場における建築物等の形態意匠基準（デザインコード）に基づき、目標、目指す姿、誘導したい方向性を整理し、デザインコードや高さのあり方を踏まえリニア駅周辺における景観育成基準を検討する。

3 検討の経過

令和5年4月～

- ・駅空間整備の景観形成に向けた考え方を検討
- ・リニア駅周辺整備計画区域内の計画地盤面の高さ設定について検討

令和5年6月～

- ・トータルデザインPJによる検討及び景観の専門家への相談
- ・リニア駅前広場における建築物等の意匠基準（デザインコード）の検討

令和5年10月～

- ・3Dデータを使った眺望の検証

4 今後の取り組み

今年度末までに、環境・景観配慮指針のたたき台となる素案を公表し、広く市民等から意見をいただきながら、都市と自然が調和した良好な景観の育成を目指し取組を進めていく。

リニアの整備効果を地域振興に活かすビジョン(案) 抜粋

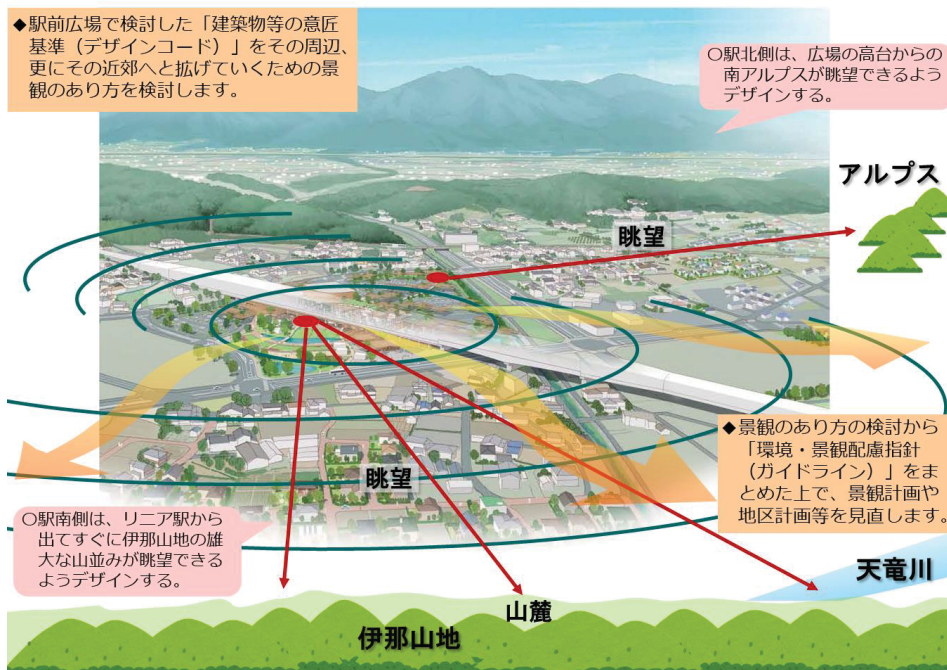
【令和5年3月20日 市議会全員協議会】資料より

(Ⅳ リニアビジョンの実現に向けた土地利用計画の見直しの考え方と進め方)

景観のあり方

- ・リニア駅周辺整備区域内の視点場を選定し、視点場からの眺望の検証と駅前広場の建築物等の意匠基準(デザインコード)を基に、駅周辺・その近郊における景観のあり方の検討を行い、「環境・景観配慮指針(案)」を策定する。
- ・この指針をガイドラインとして、リニア駅周辺での建替え等への配慮を誘導するほか、景観計画や地区計画等の変更により、必要に応じて高さ制限や形態意匠等の基準を見直す。

景観のあり方
の検討イメージ



リニアの整備効果を地域振興に活かすビジョン(案) 抜粋

【令和5年3月20日 市議会全員協議会】資料より

(Ⅳ リニアビジョンの実現に向けた土地利用計画の見直しの考え方と進め方)

今後の進め方

上記(1)及び(2)に関する土地利用計画の見直しは、広く市民等から意見をいただきながら、以下のとおり進める。

項目	年度	2022(R4) 迄	2023(R5)				2024(R6)~2026(R8)	2027(R9) 以降
			4~6月	7~9月	10~12月	1~3月		
(1) 土地利用のあり方		喫緊の課題の整理 実現方策等の検討	駅周辺・その近郊における土地利用のあり方の検討		土地利用基本方針の変更等の検討(庁内協議・関係機関協議等)		素案公表 法令手続 変更 都市計画等の検討 素案公表 法令手続 変更	リニア中央新幹線 開業
(2) 景観のあり方		駅周辺整備区域内の視点場の選定	駅前広場の建築物等意匠基準(デザインコード) 視点場から眺望の検証等		駅周辺・その近郊における景観のあり方(環境・景観配慮指針)の検討 素案公表		「環境・景観配慮指針」に基づき駅周辺での建替え等 周知 策定 景観計画等の検討 素案公表 法令手続 変更	

【リニア駅前広場における建築物等の形態意匠基準(デザインコード)について】

【飯田リニア駅前広場デザインガイドライン】

【素材・色彩計画】 ◆自然の素材を原則とし、人工的な質感の仕様を極力避ける計画

- ◇外部から人に見える部分については、できる限り“天然の素材そのものの風合い”を活かしたものを用いることが望ましい。
- ◇グリーンインフラの観点から、広場内を流れる「水」も景観を構成する重要な素材と捉えられる。
- ◇樹木や灌木類、地被類などの自然の植物が生み出す 四季折々の色が映えるように、広場全体の色調をコントロールすることが望ましい。
- ◇広場内に現れる人工物については出来る限りこげ茶色(景観色)とすることが望ましい。
- ◇広場の地面(歩行者用園路、車道)は可能な限り自然石舗装もしくは自然石骨材を用いた擬石舗装とすることが望ましい。



ベージュ～茶系



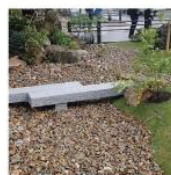
グリーン系

季節の草花・果樹・紅葉



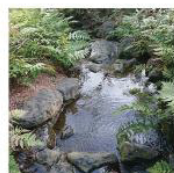
ベージュ～錆び鉄系

グレー系



ベージュ～錆び鉄系

グレー系



水の流れ・反射



ベージュ～茶系

グレー系



ベージュ～茶系

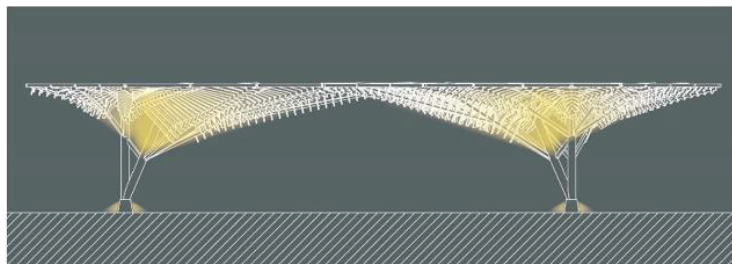


こげ茶(景観色)

【令和4年5月28日 リニア駅前「結いの広場」の整備に向けた報告会】資料より

【光の扱い(照明計画)】 ◆まぶしく不快な光を避け、光源を見せない照明計画

- ◇単純に全体の光の量を増やすのではなく、周辺環境との調和に配慮した照明によって光の質を向上させ快適に過ごせる広場空間をつくる。
- ◇まぶしく不快な光(グレア)を抑制するため、照度は確保しながら輝度を抑え、光害を生じさせない照明とする。
- ◇駅前広場の場所や用途の特性に応じた適切な色温度の設定や演色性に配慮し、照明の目的や場所の特性に応じた適切な器具を使用する。
- ◇鉛直面や天井面の間接光などの明るさも効果的に活用し、全体としては光を抑えながら照明の効果を際立たせつつ、照明によるエネルギーの削減を図る。例えば、木造大屋根の中に光源を設けることで、ぼんぼりのような柔らかな明かりと間接光で周囲を演出することができる。
- ◇光害防止のため、照明器具の光は下方方向に向けることを原則とし、併せて直接光源が人の目に映らないように配慮する。スポットライト等で上方方向の光を用いる場合は間接光とし、光が夜空に漏れないように反射板を設ける。
- ◇より少ないエネルギーでより高い効果を発揮する省エネルギー器具の採用や再生可能エネルギーの活用を促し、環境に配慮した照明計画とする。



大屋根を照らす間接光と足元灯のイメージ



信州・伊那谷の美しい星空



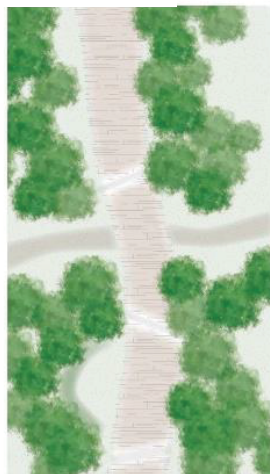
下方から照らす木格子構造のイメージ

【令和4年5月28日 リニア駅前「結いの広場」の整備に向けた報告会】資料より

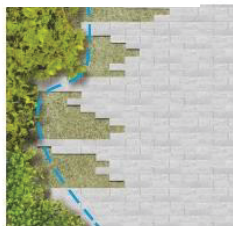
【園路・グラウンドエッジ】 ◆自然景観と調和するような直線的な設えとならない配慮

- ◇駅舎に向かう主要動線となる園路については、スムーズな歩行が可能となるよう滑りにくく平らである表層材とすることが求められる。
- ◇散策路等、自然景観との調和が求められる園路については、石舗装等、整形的でない表層材を使用することが考えられる。また、植栽帯とのエッジを非直線的にすることが望ましい。
- ◇本整備においては、基本方針として各部の見切りにおいて「縁」を出さない、という方針を前提とする。
- ◇駅前広場における生態系の活動域をエッジによって分断させないようにする観点から、舗装面と植栽帯を直線的に分断せず、仕上げラインを曖昧にすることが考えられる。具体的な方法としては、舗装材と植栽帯の境界をランダムに入り組ませることによって曖昧にすることや、玉石や碎石によって浸透帯(バイオスウェル)を設けることでグラデーションのある境界部分を構成することが望ましい。
- ◇舗装材の種類により縁石を要する場合においては、縁石は花崗岩縁石(錆石)もしくはコンクリート擬石(ビシャン仕上)の採用を基本とし、PC縁石は採用しないこと。また目地色についてもベージュ色を基本とする。
- ◇地盤のレベル差がある部分については、石積みの要領に従って擁壁状のグラウンドエッジとすることも考えられる。

非直線的な散策路



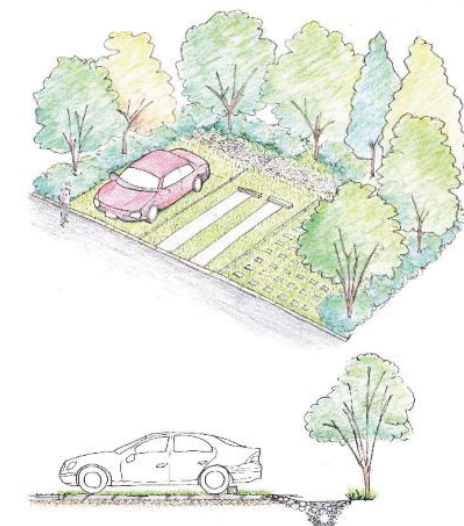
非直線的なエッジ・縁石



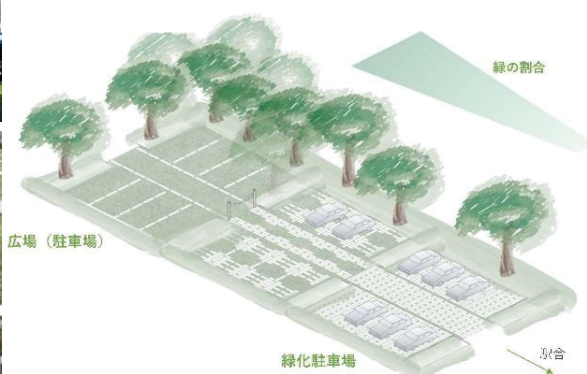
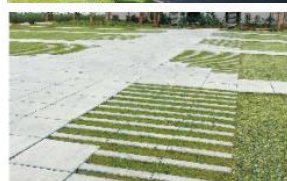
【令和4年5月28日 リニア駅前「結いの広場」の整備に向けた報告会】資料より

【緑陰、緑化舗装】 ◆グリーンインフラの観点を取り入れた緑陰及び緑化舗装

- ◇駐車場エリアの舗装方針については、緑化舗装の採用を検討することが望ましい。
- ◇緑化舗装の種類・緑陰の密度は、駐車区画の利用頻度によりエリアを段階的に分けることが考えられる。利用頻度が低いエリアは緑化密度を上げ、利用頻度が高い範囲は効率を重視して緑化率を下げる等の調整が望まれる。
- ◇駐車区画の方針については、緑化舗装ブロックの貼り方向に変化を付けることで認識させることが望ましく、トラフィックペイントによる駐車区画の明示を避ける。
- ◇駐車ブロックについては、PC製品ではなく、縁石に準じ、花崗岩もしくはコンクリート擬石(ビシャン仕上)のもので、反射板等のない、シンプルな製品とすることが望ましい。



緑化舗装による駐車区画イメージ



利用頻度によって緑の割合を変化させた駐車区画イメージ

【令和4年5月28日 リニア駅前「結いの広場」の整備に向けた報告会】資料より

【道路・舗装・サイン・その他】 ◆自然の素材と周囲の環境になじむ色調の採用

- ◇舗装材については、自然景観になじむ舗装材を検討する。舗装カラーについては化学塗料を伴うものの採用を避け、さなげ石など自然石による舗装、もしくはコンクリート色(ポーラスコンクリート舗装)を基本とする。
- ◇舗装材の骨材については、剥離による問題が生じないものを選定する。特に、公共駅前広場において骨材剥離によるつまづきにより利用者の転倒が生じることのないように配慮する。
- ◇舗装や耐荷重に配慮し、防火水槽等消防車両動線については合理的なルート計画を行う。
- ◇防護柵、ガードレール、フェンス等について、金属製の構造物は極力設けず、自然石や石垣、植栽(低木等)の設置によってその機能をまかなうことが望ましい。高さは70～80cm程度を想定する。
- ◇サインに用いる素材は出来るだけ天然のものとすることが望ましい。木、石、その他ランドスケープ景観になじむコールテン鋼が考えられる。
- ◇交通動線に関わるサインについては、JIS規格に従う形で視認性に配慮すること。ただし、支柱等の構造物については環境色にする等の景観への配慮が求められる。

道路・舗装



その他



舗装材張替えによるサイン 自然素材を用いたサイン 自然石のボラード RC擬石ボラード
自然石の舗装材 防滑仕様の点字ブロック 景観になじむ防滑仕様のスロープ 音声触知式案内板

【令和4年5月28日 リニア駅前「結いの広場」の整備に向けた報告会】資料より

【リニア駅前広場における景観デザインの方向性について】

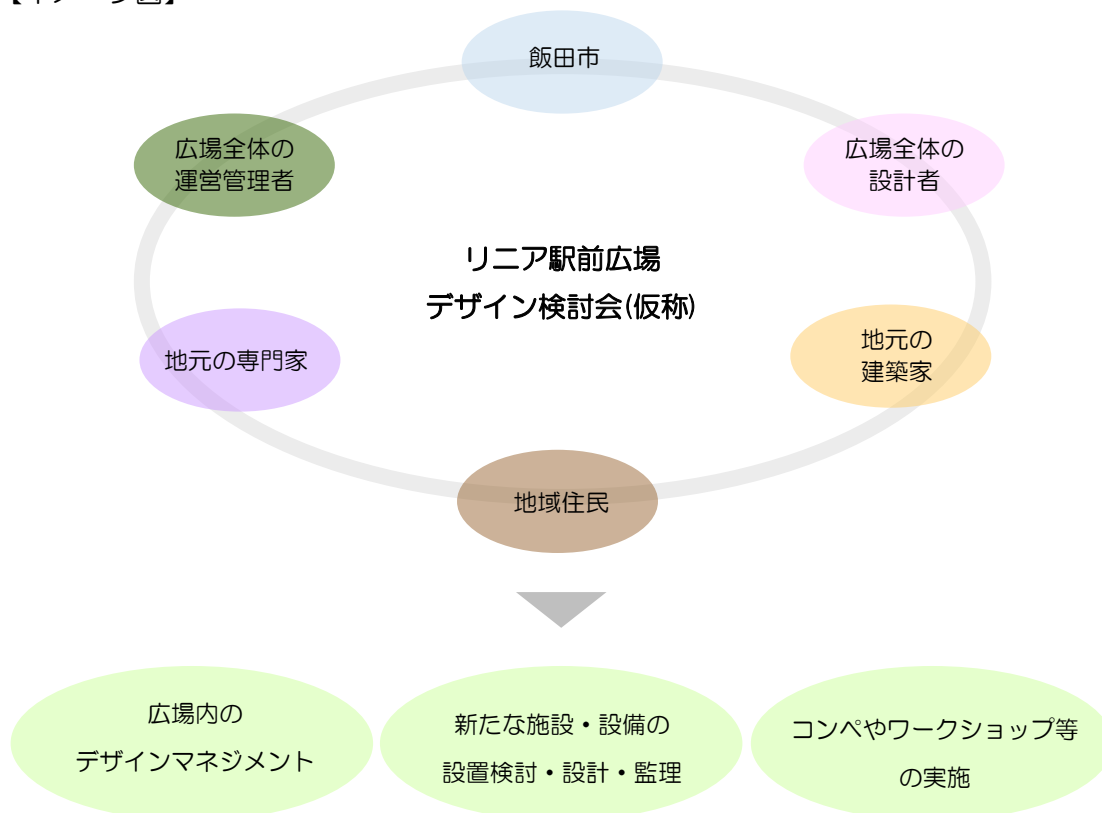
景観デザインの啓発・誘導/対話型の景観づくりの創造的発展を目指す

広場・駅舎を運用していく中で、使い方の変化や新たなニーズによって、新たに建築物や工作物、什器、看板等が必要になることが考えられます。また、イベント等の仮設テントや一時的な施設の設営も予想されます。それらの設置・検討に際して、広場全体の調和のとれた景観を守りつつ、より時代に合わせた発展的な創造を促すためには、デザインガイドラインの理念を尊重しながら、専門家による「リニア駅前広場デザイン検討会(仮称)」を設けることで、広場全体のデザインマネジメントを発展的な視点で行い、対話型の景観づくりによって景観の創造的発展を目指します。

検討会では必要に応じて、コンペやワークショップを行い、市民が参加可能な駅前広場づくりの運営が考えられます。

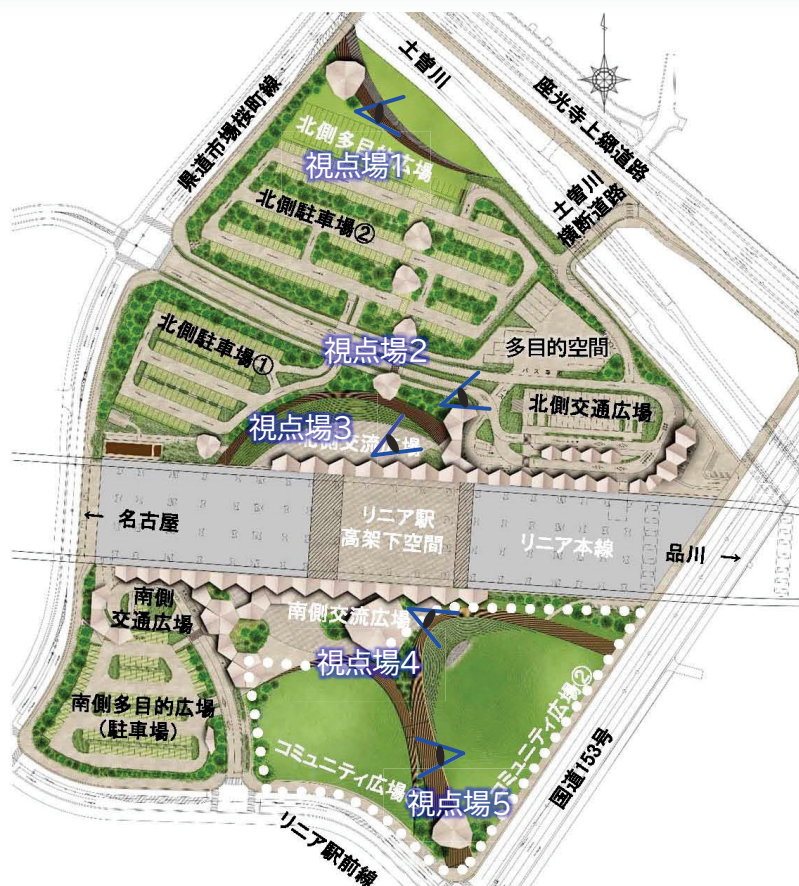
検討会メンバーは飯田市、広場全体の設計者、地域住民、地元の建築家、広場全体の運営管理者、地元の専門家等を想定しています。

【イメージ図】



【リニア駅前広場における視点場からの眺望の検証等について】

飯田・リニア駅前空間デザインノートに掲げる整備コンセプト「信州・伊那谷らしさを感じられる駅空間」に基づき、美しい山並みや日本の原風景とも言える里山の風景を眺望できる視点場を検証



【視点場参考高さ】

視点場 1 + 8 m

視点場 2 + 1 m

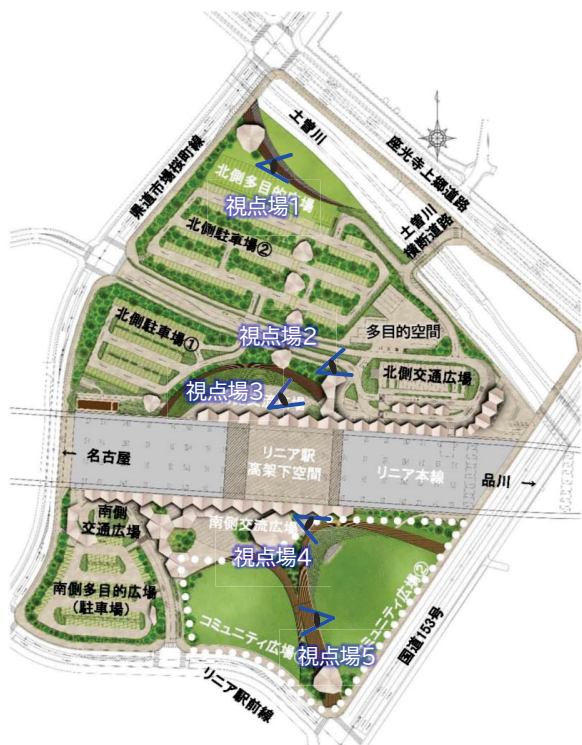
視点場 3 ± 0 m

基本GL
(高架下) ± 0 m

視点場 4 ± 0 m

視点場 5 - 3 m

【視点場からの眺望の検証(イメージ)】



環境・景観配慮指針(案)のイメージ

飯田市全域

- ①中心市街地、②沿道地域、③周辺市街地、
④都市の田園、⑤田園地域、⑥山地・高原



景観育成基準



地域区分図

新たな地域
区分を設定

環境・景観配慮指針(案)

⑦リニア駅周辺

地区計画区域+重点協議区域等を想定

リニア駅前広場

駅前広場における建築物等の
形態意匠基準(デザインコード)

駅前デザインガイドライン

視点場からの眺望の検証等
(高さのあり方検討)

デザインコードを採用
(周囲に拡げる)

目標、目指す姿、
誘導したい方向性

+

⑦リニア駅周辺における
景観育成基準
(景観計画の変更)

デザインコードを
踏まえて基準を
検討・設定

高さのあり方を
踏まえて検証結果を
考慮

リニア駅前広場における視点場からの高さのあり方検討イメージ

